

発行所  
 日本聖公会 東北教区  
 仙台市青葉区国分町2-13-15  
 TEL 022-223-2349  
 FAX 022-223-2387  
 URL <https://nssk-tohoku.com/>

シリーズ「東北の信徒への手紙」  
**私たちの地域へ蒔く種**

司祭 ドミニコ 李 賛熙



最近、弘前昇天教会には多くの方々が訪れています。日本全国や色々な国からの観光客もいらつしゃいますが、地元の方々もたくさん教会を訪れます。昨年は弘前市と一緒に教会訪問プログラムを計画し一日で200名くらいの方々がいらしたこともありましたが、しかし、教会を訪れる方々と話をすればするほど、私の心が痛くなりました。その理由は、「この教会の門はいつも閉まっていた。だから教会を観たくても観ることができない」という声を地元のたくさんの方々から聞いたからです。

もちろん門を閉めていたのには様々な理由がありました。この中で一番の理由は定住牧師がいなくて信徒皆さんでは対応に限界があるからでした。イザヤ書55章10節以下に「雨も雪も、ひとたび天から降ればむなく天に戻ることはない。それは大地を潤し、芽を出させ、生い茂らせ種蒔く人には種を与え食べる人には糧を与える。そのように、わたしの口から出るわたしの言葉もむなくは、わたしのもとに戻らない。それはわたしの望むことを成し遂げわたしが与えた使命を必ず果たす。」という言葉があります。このみ言葉では自然の順理が明らかになっています。イスラエルの民は、自分たちが種を蒔いたとしても、その恵みを施すのは神様であると告白します。神様のご意志

が必ず成し遂げられるのが創造の順理であるという言葉に刻みたいと思います。私たちが蒔くべき種は、やはり神様から受けた恵みを他の人々が知るように努力することです。そして行動することです。私たちが蒔いている神様の恵みの種がすぐに私たちに近づいていなくても挫折してはいけません。それでも私たちは種を蒔く人でなければなりません。種を蒔いてもその種がすぐに実を結び、種を蒔いた人に戻るようにはできません。それを期待するのはむしろ欲望です。

私たちは毎日種を蒔きます。慈悲深い神様の恵みを言葉と行動で実践することが種を蒔くことです。イエス・キリストの十字架も同じです。確かに最初は失敗のように見えませんが、神様の意思は異なりません。死に勝ち、完全な勝利を成し遂げるための苦痛を捧げられたのです。私たちがもっている心で、今のように種を蒔く切実な心で暮らすなら、その実は神様がくださる恵みの贈り物になります。

このような人の切実な願いは主イエス・キリストが教えてくださった祈りによく出ています。神様が慈悲深いように、私たちも慈悲深く恵みを求めなければなりません。そのためには、より多くの努力をしなければなりません。神様に純粹に従う私たちが求めるものが何であるかを私たち一人一人が確認する必要があります。

最近、教会の花壇で花を見る時間が多くなりました。名前も知らない花を長い時間ずっと見る時があります。ある日なぜ花の名前を知らないか考えてみると、これまで花に対して関心がなかったからでした。関心をもって花を見ると色々な良さに気付くことができます。このように私たちが神様の宣教に関心を持つて各地域で各教会に合う形はどんな形なのか。また、わたしたちが蒔くべき種はどのような種か。東北教区が、神様の前で謙遜な弟子として、祈りの中で確認する共同体になることを願います。

(弘前昇天教会牧師)



## 4月13日~14日 「室根クリーンフェスタ」 開催しました

に設置された室根山麓施設活用プロジェクト(以下、室根プロジェクト)では、まずは研修施設として使っていくために、そして用いていくためにも徹底的に掃除をすること

室根聖ナ

タナエル伝道所は、教区の研修施設として用いることを教区会で決議し、再出発をいたしました。施設を維持管理し、教区の研修施設として用

から始めました。

まずは室根プロジェクトのメンバーを中心に、青少年活動推進グループにもご協力いただき掃除と親睦、そして礼拝の3つを柱としたプログラム「室根クリーンフェスタ」を計画し、4月13日(土)~14日(日)の日程で行いました。総勢15名の方が参加してくださいました。定住者が不在となり約1年が経過しており、また日頃使用していないこともあり、ほこり、汚れが相当たまっていましたが、参加者総出で大掃除をしたことにより見違えるほどに綺麗になりました。礼拝堂の床にはワックスを塗りました。14日の主日には綺麗になった聖堂で聖餐式がささげられたのは大きなお恵みでした。

13日の作業を夕方を終えてから、場所をレクリエーション施設「大東ふるさと分校」に移して夕食親睦会を行いました。この施設は室根伝道所から車で約15分のところであり、コテージとお風呂、食事処もあり、今後のプログラムでも併用できると思われました。

室根山の夕日を眺めながらの



バーベキューは格別で楽しい親睦の時となりました。

今回のクリーンフェスタで綺麗になった室根聖ナタナエル伝道所を利用していただきたいと思えます。室根プロジェクトとしても今後の具体的な計画を考えてまいります。そして、ぜひ皆さんも室根でのプログラムを検討していただければ幸いです。東北教区には自然の中にある施設が2つあります。十和田湖畔ヴァイタル山荘、そして室根聖ナタナエル伝道所です。自然の中に身を委ねて体も心もリフレッシュしてみませんか。

(室根山麓施設活用

プロジェクト

リーダー 司祭 越山哲也

### 常置委員会報告

(第6回・4月21日)

報告事項▼主教報告…大韓聖公会大田教区より、5月25日に大田教区創立59周年記念と大聖堂奉献式を執り行うこと、東北教区からの出席者派遣の要請が正式にあった。▼常置委員長報告…チーム北国の現況について。北海道教区の「出会いと交わりの日」(講壇交換)に東北教区から李贊熙司祭の函館聖ヨハネ教会への派遣、青森聖アンデレ教会には北海道教区から上平更司祭が派遣されることを報告。▼執行機関報告…11月4日に「東北教区宣教協議会」を開催、その前段として9月のいずれかの連休中に「プレ宣教協議会」を行うことを予定している。協議事項▼主教から6月1日付で加藤博道主教に山形聖ペテロ教会での礼拝協力を委嘱することについて諮問があり、適当である旨答申。▼能登半島地震支援に関し、支援車両「うちなんちゃー号」の京都教区能登半島地震対策室搬入費を「災害支援資金」から拠出することを承認。

### 東日本大震災被災者 支援プロジェクト報告

◇3月11日、教区内7会場にて「東日本大震災13周年記念の祈り・講演会」を行いました。オンライン発信の協力者も加わり、メンバーはそれぞれの持ち場で運営に当たりました。多くの方にご参加、ご視聴いただき、ありがとうございました。

◇京都教区能登半島地震対策室が「人や物資が積める大きな車」を探していたことに応え、東日本大震災時に沖繩教区より譲っていただいた支援車両のバン「うちなんちゃー号」を使っていただくことになり、3月20日現地に届けてまいりました。13年間、私たちの被災地支援の仲間として大活躍しました。沖繩教区の支援に改めて感謝しつつ、新たな場でも大いに役立つことを願っています。

◇水曜喫茶は3月13日、4月8日に実施、計13名の方が参加されています。差し入れ等で多方面から支えてくださる皆さんに、改めて感謝いたします。

(リーダー 浅原 和裕)



東北教区

アイリン 坂水 かよ

「チーム北国」2年目の今年は、4つのセクションが、本格的に動き出しました。

1月の全体ミーティングの際に大町信也司祭から、各セクションへの要望事項として次のことが挙げられました。「宣教協働」は信徒を入れた協働プログラムの検討と実施を。「広報」は信徒への周知を検討し実施を。「組織」は各委員やグループ同士の交流を図っていくことを。「財政」は既に勘定科目を擦り合わせるプロセスに入っているのでも今後も継続を。これを受けて、今年度の各セクションのロードマップを基に実践に向けて

計画を立て取り組んでいます。双方の「同じ・似ている・違う」に出会い、それぞれが既に与えられている恵みを共有していくことの喜びを感じながらの作業です。

また、両教区の宣教協働に向けての計画が整いました。

◇6月30日北海道教区「出会いと交わりの日」に、東北から李贊熙司祭が函館聖ヨハネ教会へ、交換として青森聖アンデレ教会へ上平更司祭がそれぞれ派遣されます。

◇7月15日の北海道教区宣教150周年記念礼拝へ、東北教区からチーム北国のメンバーが出席の予定です。

◇「大館の物語を聴く会」を6月9日の主日礼拝後に、オンラインで両教区を結び開催します。

◇東北・北海道両教区の宣教協働の「絵本」制作について、東京教区の樽谷雪さんの協力をいただき、10月頃の完成を目指します。楽しみです。

これからの活動報告や教区間の交流の様子を皆様に沢山お伝えできればと思います。



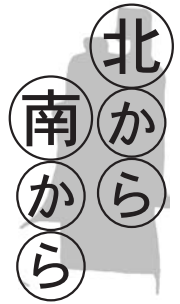
旭川は、道北地方の中核都市で、札幌に次ぐ人口を有します。また、三浦綾子の小説『氷点』の舞台であり、大雪連峰の山並みと市内を流れる4つの川は太古の北海道の姿を今に映し出しています。教会は来年、宣教130年を迎えます。その中には、アイヌの人々との関わりがあり、特に、アイヌ文化の豊かさを世に知らしめた知里幸恵の存在もあります。現在堅信受領者は50名ほど、また歴史ある保育園を併設しています。教会の原点に戻りつつ、新しい教会形成を模索しています。



4月人事 異動で青森聖アンデレ教会管理牧師を辞し、仙台聖フラシス教会管理牧師に着任しました。

た。青森では4年という短期間の牧会でした。2020年4月、8年勤務した仙台基督教会から移った時は定年退職まで残り8年でしたから、きつと最後の異動だろうと思いついた。この地に骨を埋める覚悟でした。ウイリアムス神学館在学中に教授たちや先輩の神学生たちから「主教に派遣された地で死ぬ覚悟を持って！」と意気込みを伝授されたもので、素直な私はどんな時でもどこでもあろうとも、遣わされた土地で殉教したら本望と心得てきました。

引越当日4月8日は快晴、4年前青森に入った日は冷たい雨だったのにと述懐しました。合見積の結果発注した引越業者は、青森の幼稚園がいつもお世話になっており、ご厚意による員数と台数で2時間半ほどで荷積み完了、恵まれて感謝でした。夕刻には仙台入りができ、疲労も少なく有り難いことでした。 翌4月9日は聖クリストファ幼稚園始園日ということもあり搬入は午後になりましたが、朝から雨で止みません。寒さが加わった14時30分頃から開始するも、荷はすべて梱包され、他は段ボールですから物が濡れません。これもまた有り難いことです。牧師館はややコンパクトサイズで筆筒や大型家具を階段では2階に上げられません。2階の窓を外して吊り上げ方式となり、作業員全員が上下二手に分かれて「せーの」と掛け声揃えて力を合わせ、「うんとこしょ、どっこいしょ」と何とかすべりが各部屋に納まりました。 この作業に取り掛かる時には雨が当たっていたのは誠に幸いなことでした。完了時刻19時57分、私たちは玄関前に陣を組んで、有り難うとおめでとう、お疲れ様と声掛け拍手して解散したのでした。 青森でもフランスでも信徒たちがお顔を見せてくださり心強く本当に感謝でした。「雨降って地固まる」私の引越物語です。



### 大館聖パウロ教会

祈り合うパートナーである東京聖マーガレット教会との交流が再開しました。個性溢れる青年チーム7名が来大。聖堂に爽やかな若い声が響いて、み言葉の礼拝奉仕をしてくださいました。司式から奏楽まで青年たちが分担し、生き生きとした姿に感動でした。礼拝後、前日から青年たちが準備したシチューのおもてなしを受け、歌やダンスが飛び出し、笑いと拍手で心が一つになった喜び、楽しい時間でした。

最終日は幼稚園の子どもたちとたくさん遊んでいただき、郷土料理の「だまっこ」作りを体験、比内鶏のスープを喜んでくれました。後日、東京での報告会の折、80人分の「だまっこ鍋」を振る舞い、好評だったそうです。教会と幼稚園にたくさんのお恵みを残し、2泊3日の交

流を終え、夜行バスの窓からいつまでも手を振って帰られました。2007年からの交流に関わってくださった聖職の方々、両教会の先輩の皆さんが紡いだ賜物です。

祈りと交わりを大切に、明るく温かい教会でありたいと思います。

### 山形聖ペテロ教会

2023年4月より一年間遠藤司祭様定住の下、牧会の恵みに与れましたこと、感謝いたします。司祭様の気さくなお人柄に、教会内外問わず多くの方が親しみをもって接すことの出来た一年でした。

振り返ってみると、尊いお二人の信徒さんとの別れもありましたが、当教会墓地での野外礼拝2回、10月には20数年ぶり?の教会ミニバザー開催。そして何よりも米沢聖ヨハネ教会と合同による洗礼・堅信式が行われました。洗礼、堅信を受けられた当教会のペテロ菅鼓二郎さん、堅信を受けられた米沢聖ヨハネ教会の施洗者ヨハネ高山雅人さん、お二人のこれからの信仰生活

を祝うにふさわしく、計27名の方が出席され、共に祝うことが出来ました。

遠藤司祭様の牧会の中で、米沢聖ヨハネ教会と礼拝を通して交わりの時を何度か持つことが出来たことは大きな恵みでした。あつという間の一年でしたが、実り多い牧会に与れましたことに感謝いたします。遠藤司祭様の新天地での牧会の上に主のお恵みが豊かにありますように。

主の平和

### 仙台基督教教会

3月10日、仙台基督教教会聖堂聖別10周年記念の聖餐式が、当時牧師を勤めておられた長谷川清純主教による司式説教、補式を八木正言司祭、式典長、アコライト、総勢11名といつもより多い奉仕で、とても厳かな雰囲気の中、献げられました。

長谷川主教の説教は、時折ユーモアを交えながらも、当時のことを思い出させる内容で、建設中に主教様ご自身が牧師館仮住まいとして利用しておられたお向いのマンションより、毎日定点観測で聖堂

建築の様子を写真撮影していたご苦労や、聖堂建築のために100回を超える会議があったことなど、聖堂建築に関わったすべての方々の熱意とあつい信仰心があつて現在があることを、改めて再確認する時となりました。

仙台基督教教会は仙台市内でも恵まれた立地にある教会です。その恵まれた立地のなか、これからも神さまの器として豊かに用いられ、地域に開かれた教会へとなっていけますようにと、思いを新たに一日となりました。

### 訂正

5月号3面の記載に誤りがありました。訂正し、深くお詫びいたします。

◇2段目後ろから7行目 誤「A.L.P.S.処理水は」

正「原発排水は」

◇4段目8行目

誤「国に」正「県議会に」

### 地球環境のために祈る日

6月2日

### 原発のない世界を求める週間

6月2日～8日

### 沖縄週間

6月23日～29日

覚えてお祈りください

### 堅信おめでとう

ヘレナ 外崎 佳代

(5月5日・弘前)

### 6月逝去者記念聖餐式

6月5日(水) 午前10時

於 主教座聖堂

司式説教 長谷川清純 主教

宣教師 Miss Marian Humphreys

1968年6月1日逝去

司祭 山縣 雄杜三

1941年6月2日逝去

司祭 曾根 精

1929年6月6日逝去

Sr. Mariya Margaret

1994年6月6日逝去

司祭 テモテ中山 眞

2019年6月8日逝去

司祭 ダビデ横田 豊

2004年6月19日逝去

司祭 ヨハネ佐藤 真実

2023年6月24日逝去

司祭 パウロ山崎 正雄

1998年6月25日逝去

伝道師 桑野 倭

1936年6月29日逝去

司祭 ペテロ宅間 信基

1984年6月30日逝去

伝道師 ルツ小笠原 あい

2001年6月30日逝去